



SIXTIETH ANNIVERSARY

TAMRON®

産業の眼を創造貢献するタムロン

第64期 報告書

2010年1月1日～2010年12月31日

株主の皆様へ | TO OUR SHAREHOLDERS



代表取締役社長 小野 守男

●株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

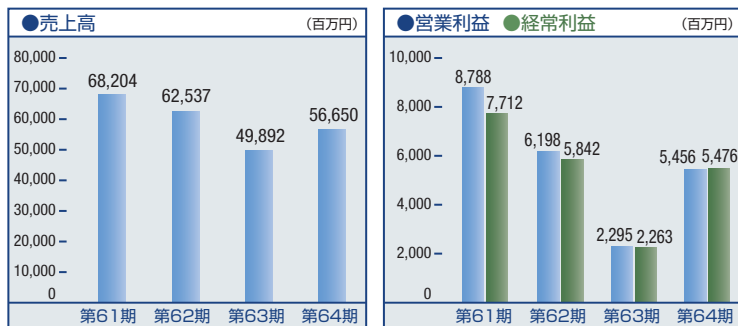
当社はおかげさまで、2010年11月1日に創業60周年を迎えることができました。これもひとえに、株主の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。今後も当社は更なる光学技術の発展を図り、様々な産業分野において新しい光学の可能性を追求し、先進的な技術から生み出される光学製品によって社会に貢献してまいります。

●当期の業績について

当期(2010年1月1日～2010年12月31日)における世界経済は、米国や欧州において雇用・所得環境には依然として厳しい状況が見られましたが、新興国の経済成長もあり、総じて緩やかな回復基調で推移し、国内経済は、緩やかな回復基調となっておりますが、急激な円高の進行やデフレの影響等により、足踏み状態が続きました。

当社グループ関連市場であるデジタルスチルカメラ市場では、一眼レフタイプは金額においても前年比2桁近い伸びとなり、コンパクトタイプも堅調に推移いたしました。

業績の推移



このような状況の下、当社グループの当期における経営成績は、上半期、下半期ともに全セグメントで増収増益を達成する等、好調に推移いたしました。このような結果、為替の円高によるマイナス影響はあったものの、売上高は566億50百万円(前期比13.5%増)となりました。利益面につきましては、売上高の増加に加え、コストダウン活動の効果もあり、営業利益は54億56百万円(前期比137.8%増)、経常利益は54億76百万円(前期比141.9%増)、当期純利益は36億89百万円(前期比474.2%増)と大幅な増益となりました。

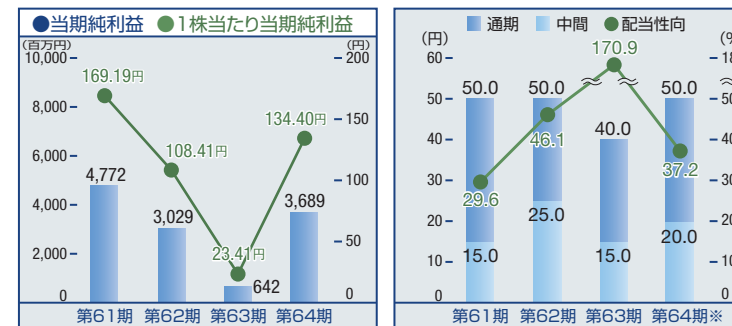
●配当金について

期末配当金につきましては、普通配当1株当たり25円に、創業60周年記念配当5円を加え、1株当たり30円といたしました。これにより、年間配当金は前年に比べ10円増配となる50円(中間配当金20円)となり、配当性向(連結)は37.2%となりました。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月

配当金について



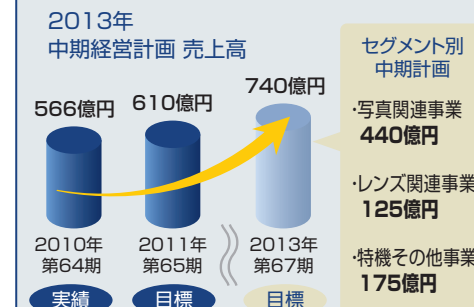
※記念配当5円を含む

次期の見通しについて

	上期	下期	通期
売上高	260億円	350億円	610億円
営業利益	20億円	36億円	56億円
経常利益	19億円	36億円	55億円
当期純利益	13億円	25億円	38億円

※本見通しは、為替レート1米ドル=82円、1ユーロ=110円を前提としております。

中期の見通しについて



[中長期的な会社の経営戦略および対処すべき課題]

- (1) CSR経営の強化とともに、内部統制およびリスクマネジメントの推進
- (2) 顧客満足度向上のため、品質と信頼性を追求し、アフターサービス体制を強化
- (3) ブランド認知度向上と自社ブランド交換レンズの販売強化
- (4) 主要部品の内製化推進およびロジスティクス戦略強化による更なる原価低減
- (5) 遠赤外線関連、車載関連等の新事業の推進
- (6) 光学技術を中心とした要素技術開発と知的財産戦略の強化推進

CONTENTS

- 株主の皆様へ 1・2
- セグメント別事業の概況 3・4
- タムロン創業60周年特集 5・6
- フォーカス! 7・8
- 下半期トピックス一覧 9・10
- 連結財務諸表 11・12
- 会社概要 13・14
- マクロレンズ フォトコンテスト 裏表紙

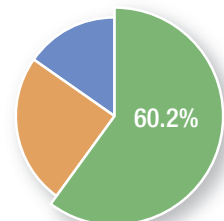
セグメント別事業の概況 | BUSINESS SEGMENT

写真関連事業

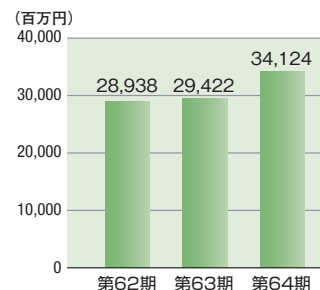


デジタル一眼レフカメラ用交換レンズ

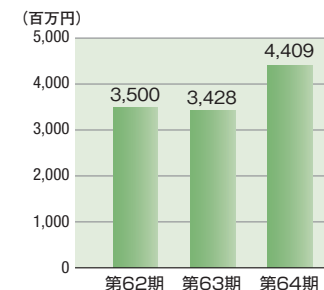
連結売上高構成比



写真関連事業売上高



写真関連事業営業利益



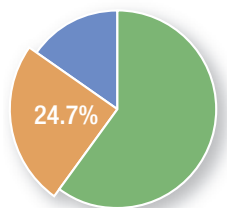
写真関連事業は、自社ブランド交換レンズの創業60周年モデルといたしまして、8月に、当社では5年連続EISAアワード受賞となった「ヨーロッパ・ズーム・レンズ2010-2011」を獲得した望遠ズームレンズ70-300mm VC USD(A005)、12月には、たった1本であらゆるシーンが撮影できるオール・イン・ワンの世界最小・最軽量な「15倍」高倍率ズームレンズ18-270mm VC PZD(B008)を発売いたしました。自社ブランドでは、既存機種においても主力製品群である高倍率ズームレンズ、大口径ズームレンズが堅調に推移したことから増収となりました。また、OEM関連でも増収となったことから、写真関連事業としては過去最高売上高を更新いたしました。

このような結果、写真関連事業の売上高は341億24百万円(前期比16.0%増)、営業利益は44億9百万円(前期比28.6%増)となりました。

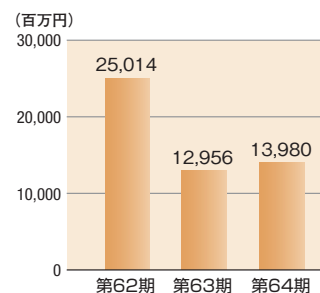
レンズ関連事業



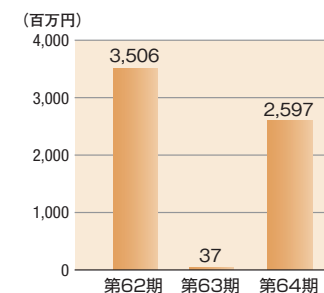
デジタルカメラ用レンズ・ビデオカメラ用レンズ



レンズ関連事業売上高



レンズ関連事業営業利益



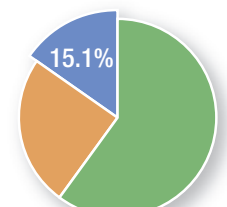
レンズ関連事業は、主にコンパクトデジタルカメラ市場の回復に伴う得意先の販売好調により、当社の得意とする中高級機種向けコンパクトデジタルカメラ用レンズユニットが増収となりました。また、利益面では原価低減を図った効果に加え、開発費等の回収もあり大幅な増益となりました。

このような結果、レンズ関連事業の売上高は139億80百万円(前期比7.9%増)、営業利益は25億97百万円(前期は営業利益37百万円)となりました。

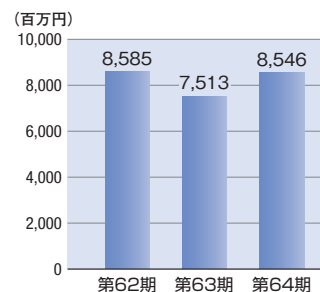
特機その他事業



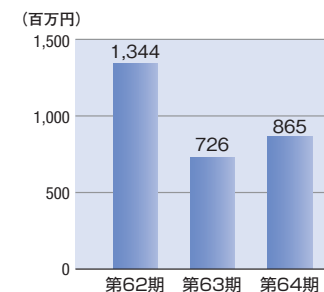
監視カメラ用レンズ



特機その他事業売上高



特機その他事業営業利益



特機その他事業は、主に中国においてCCTVカメラ用レンズの販売が好調に推移いたしました。また、メガピクセル対応電動ズーム・フォーカス付きの一体型バリフォーカルレンズや高画質バリフォーカルレンズ搭載の屋内用ミニドームカメラ等の新製品も発売いたしました。

このような結果、特機その他事業の売上高は85億46百万円(前期比13.7%増)、営業利益は8億65百万円(前期比19.2%増)となりました。

タムロン創業60周年特集 | SPECIAL TOPICS

「レンズ一筋」60年 — その歩みをご紹介します。

すべては、レンズ研磨から始まった。

レンズの下請け加工を行う小さな製作所から、タムロンの歴史は始まりました。

会社沿革

1950
浦和市に「泰成光学機器製作所」を創業

1958
「タムロン」ブランドを商標登録

1952
資本金250万円で
「泰成光学工業株式会社」設立

1959
本社及び本社工場を
埼玉県大宮市蓮沼に建設

1969
青森県に弘前工場を設立



創業メンバーの新井健之氏(写真右)の「挑めば出来る」という精神は現在に受け継がれています。



当時の浦和工場

エピソード — 社名の由来

「タムロン」は、当社の光学技術の基礎を築いた田村右兵衛氏の姓から名づけられました。商品名として世に出た後、創業20周年を機に会社名として採用されました。技術者を大切にするという社風は当時も今も変わりません。



商品名及び社名の由来となった田村右兵衛氏

1970
社名を「株式会社タムロン」に変更



当時の社章

1979
米国ニューヨーク市に現地法人「タムロン、インダストリーズ、Inc.」(現「TAMRON USA, INC.」)を設立

1982
西独に「タムロン、フェアトリープス、Ges.m.b.H.」(現「TAMRON Europe GmbH.」)を設立

1984
青森県浪岡町に「株式会社オプテック・タムロン」を設立

日本証券業協会における店頭登録銘柄となる

1985
金型の設計・製作会社「株式会社ファイン技研」を買収し、子会社とする

1986
青森県大鰐町に成形工場を設立

1991
「株式会社オプテック・タムロン」を吸収合併し、浪岡工場とする

1995
中判カメラの製造、販売会社「プロニカ株式会社」を買収し、子会社とする

1997
香港に「タムロン工業香港有限公司」を設立

中国広東省佛山市に「タムロン光学佛山有限公司」を設立

1998
「プロニカ株式会社」を吸収合併

2000
「株式会社ファイン技研」から営業全部の譲受けを行う

フランスに「TAMRON France EURL.」を設立

2005
新金型工場を竣工(本社)



中国上海市に「タムロン光学上海有限公司」を設立

2006
東京証券取引所市場第一部に上場



2007
タムロン光学佛山有限公司に第三期工場設立



2009
インド駐在員事務所を開設
モスクワ駐在員事務所を開設

グローバル展開を推進しています。

製品沿革

1950
写真機・双眼鏡レンズの加工開始



1957
一眼レフカメラ用交換レンズ「135mm F/4.5」完成

世界初の一眼レフカメラ用マウント交換方式「T」マウント開発



Tマウントシステム

1966
レンズ原器、超精密レンズ、プリズムの生産開始

マウント交換方式「タムロン・アダプトマチックレンズ」開発

ITV用・放送用テレビレンズ等の生産開始

1969
一眼レフカメラ用交換レンズ、テレビ用レンズ、電子複写機用レンズ等の生産開始

1970
「タムロンアダプトールレンズ」販売開始



1976
「タムロンアダプトールレンズ」販売開始

1979
「スーパーパフォーマンス(SP)」シリーズ開発

1981
「6倍ズームビデオカメラレンズ」開発、生産開始



1983
一体型ビデオカメラレンズ開発

1992
世界最小、最軽量の一一眼レフ用高倍率ズームレンズ「AF28-200mm(71D)」発売

エピソード — 高倍率ズームの始まり

タムロンの代名詞とも言える「高倍率ズーム」の歴史の始まりとなったこのレンズは、「タバコの箱の大きさに」とくると丸めた方眼紙が原型でした。これを差し出したのは小野社長(当時取締役開発本部長)。この製品から、焦点距離の拡大、小型・軽量化、新機構の搭載を次々に実現し、現在の「高倍率ズームのパイオニア」の地位を築いたのです。



小野社長(当時取締役開発本部長)のサインが入ったモデル71Dの原型となった方眼紙

2000
645判レンジファインダーカメラ「RF645」発表

2006
携帯電話用レンズユニットの販売開始

2008
車載カメラ用レンズ販売開始

2010
創業60周年記念モデル 第一弾「SP 70-300mm VC USD (A005)」が「ヨーロッパ・ズーム・レンズ 2010-2011」を受賞

現在5年連続EISAアワード受賞中(過去19年で12度の受賞)

タムロンの製品は世界中で高い評価を得ています。

タムロン創業60周年記念モデル 第二弾 『18-270mm VC PZD(Model B008)』を発売



タムロンは、当社一眼レフカメラ用交換レンズでは初となる新AF駆動方式「PZD (Piezo Drive)」(※1)と、評価の高い手ブレ補正機構「VC」を採用したフィルター径62mmの世界最小・最軽量(※2)な「15倍」高倍率ズームレンズを発売いたしました。

『18-270mm VC PZD』は、驚異的なコンパクト化と、質量450gの軽量化を実現。「定在波型」超音波モーターを採用した新AF駆動方式「PZD」によりAF駆動時の高速化と静音化を実現しています。携帯性と操作性に優れていますので、日常のスナップはもとより、旅行・登山・スポーツなど、アクティブな撮影シーンもこれ1本で快適に撮影できます。

(※1)「PZD (Piezo Drive)」: タムロン開発の「定在波型」超音波モーター。DCモーターよりもAF駆動時のスピード、静音性に優れ、従来のリング型超音波モーターより設計自由度が高く、小型化に寄与するアクチュエーターです。
(※2)ズーム倍率15倍を有する一眼レフカメラ用高倍率ズームレンズにおいて。当社調べによる。2010年12月現在。

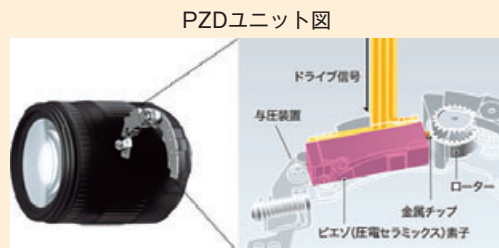


発売日
ニコン用: 2010年12月20日
キヤノン用: 2010年12月20日
ソニー用: 順次発売
希望小売価格: 80,000円
(税込84,000円)

当社従来製品と比べ
(容積比)
24%の小型化

当社独自開発の
超音波モーター
(PZD)搭載

小型化された
新手ブレ補正機構
(VC)搭載



世界の12言語で情報を発信するグローバルサイト
<http://www.tamron.com>
タムロンのグローバル展開を強力にサポート



より美しい写真を撮るために

「あれ、明るすぎる」「今度は真っ暗だ…。」写真を撮ると、そんなことがよくあります。適正な明るさ・暗さを表現するために、露出補正を学びましょう。

露出補正について

スキー場などで雪景をバックに人物を撮影すると、眼で見た時より暗い仕上がりになり「人物の顔が真っ黒」。こんな経験をされた方が多いのではないのでしょうか。

スキー場など全体が白い場所での撮影では、カメラ側で被写体が明るすぎると判断し、取り込む光の量を少なくするため人物の顔が真っ黒になってしまうことがあります。このような状態を露出アンダー／ローキー（光の量が少ない＝暗い仕上がり）と言います。

逆に全体的に暗い被写体であれば、取り込む光の量が多くなり露出オーバー／ハイキー（光の量が多い＝明るい仕上がり）に再現されてしまいます。

そんな場合に、「露出補正」という機能を使えば、カメラの判断に任せず自分の求めている明るさ・暗さに調整することができます。

「+/-」のマークで表示される露出補正は、適正「0」を軸に+補正（プラス補正）-補正（マイナス補正）ともに2絞りほどあり、スキー場などの全体が白い被写体や逆光などの場合は+1.5EV補正、日陰や夜あるいは人工光源下の場合には-1.5EV補正を目安に値を増減すると眼で見た状態に近づきます。



A-1 広角で建物とオブジェを、露出オートで撮影。青空が入っていますが、建物のアンダー部分を拾って、露出はやや明るめで影の部分に締まりがない感じ。



A-2 露出オートから-0.3EV単位で、黒を締めるために段階補正をして-2.0EV (2絞り) まで。青空もより青く黒の締まりも出てきて、写真に重厚さが増してきました。



B-1 ベランダに置いた黄色いマーガレットを露出オートで撮影しましたが、カメラ側で陽射しの明るさを測定し、適正露出というより少しアンダーになってしまいました。



B-2 撮る前のイメージは、女の子っぽいハイキーな仕上がり。そこで+2EVまで、露出補正ダイヤル（ボタン）で調整。可憐でハイキーな仕上がりになりました。

下半期トピックス一覧 | TOPICS

PRODUCTS

監視カメラ

7/13 ● IR対応 大口径 1/3型 パリフォーカルレンズ
3.0-8mm F/1.0 Model 13VM308ASIRII/
13VG308ASIRII 発売



13VM308ASIRII

13VG308ASIRII

PRODUCTS

監視カメラ

7/16 ● メガピクセル対応 電動ズーム・フォーカス付き
一体型カメラ用パリフォーカルレンズ
IR対応 1/3型 3.0-9mm F/1.2
(Model DFO10NA) 発売



PRODUCTS

交換レンズ

8/17 ● 『SP 70-300mm VC USD (Model A005)』が「ヨーロッパ・ズーム・
レンズ 2010-2011」を獲得
→ 当社製品が5年連続EISAアワード受賞



PRODUCTS

交換レンズ 60周年記念モデル 第一弾

8/26 ● 『SP 70-300mm VC USD (Model A005)』ニコン用を発売



2010年

12 December

11 November



SIXTIETH ANNIVERSARY

OTHERS

- 創業60周年(11/1)
- 第36回「日本写真家協会賞」を受賞(11/26発表)

10 October

PRODUCTS

監視カメラ

9/10 ● 高画質パリフォーカルレンズ搭載
屋内用ミニドームカメラ
(PAL DC12V/AC24V
モデル/DC28105P-24) 発売



9 September

PRODUCTS

交換レンズ

9/25 ● 『SP 70-300mm VC USD
(Model A005)』
キヤノン用を発売

OTHERS

- グローバルサイトを開設(9/21)

8 August

7 July

PRODUCTS

交換レンズ 60周年記念モデル 第二弾

12/20 ● 『18-270mm VC PZD
(Model B008)』
キヤノン用・ニコン用を発売



連結財務諸表 | FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

区分	当期	前期
	2010年12月31日 現在	2009年12月31日 現在
〔資産の部〕		
① 流動資産	34,541,160	30,530,662
② 固定資産	15,579,543	16,861,268
資産合計	50,120,703	47,391,931
〔負債の部〕		
③ 流動負債	13,284,671	11,904,151
④ 固定負債	2,839,561	2,558,425
負債合計	16,124,232	14,462,576
〔純資産の部〕		
株主資本	36,630,852	34,176,809
評価・換算差額等	△2,634,381	△1,247,455
⑤ 純資産合計	33,996,470	32,929,354
負債純資産合計	50,120,703	47,391,931

当期のポイント POINT

- ① 現金及び預金が8億90百万円、繰延税金資産が7億50百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が50億21百万円、仕掛品が10億51百万円増加したこと等により、前期末に比べて40億10百万円増加しました。
- ② 有形固定資産が4億62百万円、無形固定資産が4億19百万円減少したこと等により、前期末に比べて12億81百万円減少しました。
- ③ 買掛金が10億32百万円増加したこと等により、前期末に比べて13億80百万円増加しました。
- ④ 長期借入金が3億60百万円増加したこと等により、前期末に比べて2億81百万円増加しました。
- ⑤ 円高により為替換算調整勘定の残高が△26億99百万円(前期末は△13億24百万円)となった一方、利益剰余金が24億54百万円増加したこと等により、前期末に比べて10億67百万円増加しました。自己資本比率は、前期末に比べて1.7%低下し、67.8%となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

区分	当期	前期
	自2010年1月1日 至2010年12月31日	自2009年1月1日 至2009年12月31日
売上高	56,650,832	49,892,645
売上原価	37,692,114	35,637,382
売上総利益	18,958,717	14,255,262
販売費及び一般管理費	13,501,817	11,960,105
営業利益	5,456,899	2,295,157
営業外収益	175,000	182,043
営業外費用	155,495	213,451
経常利益	5,476,405	2,263,749
特別利益	16,331	1,800
特別損失	-	1,153,000
税金等調整前当期純利益	5,492,737	1,112,549
法人税、住民税及び事業税	971,802	674,150
法人税等還付税額	△38,424	-
法人税等調整額	869,873	△204,145
当期純利益	3,689,485	642,545

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

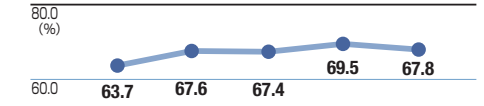
(単位:千円)

区分	当期	前期
	自2010年1月1日 至2010年12月31日	自2009年1月1日 至2009年12月31日
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,562,275	3,727,055
⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,008,914	△1,829,293
⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△890,715	△801,949
現金及び現金同等物に係る換算差額	△553,444	39,141
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△890,799	1,134,954
現金及び現金同等物の期首残高	11,887,019	10,752,065
⑨ 現金及び現金同等物の期末残高	10,996,219	11,887,019

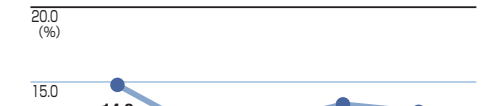
当期のポイント POINT

- ⑥ 税金等調整前当期純利益が54億92百万円、減価償却費が32億92百万円となった一方、売上債権の増加額が56億6百万円、たな卸資産の増加額が16億82百万円となったこと等によるものであります。
- ⑦ 有形固定資産の取得による支出が28億99百万円となったこと等によるものであります。
- ⑧ 長期借入金による収入が16億59百万円となった一方、長期借入金の返済による支出が13億14百万円、配当金の支払額が12億34百万円となったこと等によるものであります。
- ⑨ 前期末に比べて8億90百万円減少しました。

自己資本比率の推移



借入金依存度の推移



※期末日現在で算出

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)


当 期 (自2010年1月1日 至2010年12月31日)	株 主 資 本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計		
2009年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	21,334,711	△1,521,304	34,176,809	△1,247,455	32,929,354
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△1,235,286		△1,235,286		△1,235,286
当期純利益			3,689,485		3,689,485		3,689,485
自己株式の取得				△156	△156		△156
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△1,386,926	△1,386,926
連結会計年度中の変動額合計			2,454,199	△156	2,454,042	△1,386,926	1,067,116
2010年12月31日 残高	6,923,075	7,440,327	23,788,911	△1,521,461	36,630,852	△2,634,381	33,996,470

会社概要 | COMPANY PROFILE

会社概要		2010年12月31日現在
商号	株式会社タムロン	
創業	1950年11月1日	
設立	1952年10月27日	
本社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地	
資本金	69億23百万円	
従業員数	7,198名(連結)	

役員		2011年3月30日現在
代表取締役社長	小野 守男	
取締役副社長	河野 昭二	
取締役副社長	太田 均	
取締役副社長	白井 義博	
専務取締役	長島 久明	
専務取締役	川合 喬	
常務取締役	関 廣司	
常務取締役	新井 宏明	
取締役	志村 忠寛	
取締役	鯉坂 司郎	
取締役	大瀬 英世	
取締役	濱田 憲一	
常勤監査役	益子 幸雄 ※	
常勤監査役	安田 信一	
監査役	利根 忠博 ※	
監査役	西本 恭彦 ※	

※社外監査役



品質マネジメントシステム企業登録 ISO 9001 取得
タムロンは、国際的な品質マネジメントシステムの規格、ISO9001に適合認定されています。

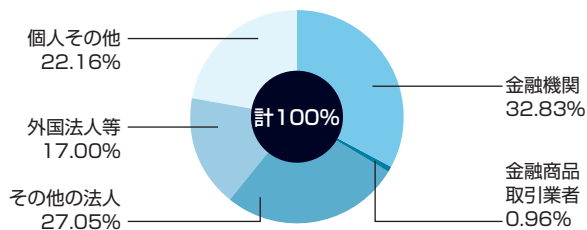
環境マネジメントシステム企業登録 ISO 14001 取得
タムロンは、地球環境対策にも積極的に取り組んでいます。

株式の状況		2010年12月31日現在
発行可能株式総数	80,000,000株	
発行済株式の総数	28,235,000株	
単元株式数	100株	
株主数	7,562名 ※単元未満除く	

大株主(上位10名)			2010年12月31日現在
株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)	
株式会社ニューウェル	4,898	17.34	
ソニー株式会社	3,129	11.08	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,594	5.64	
株式会社宏友興産	1,529	5.41	
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	1,161	4.11	
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	3.97	
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	685	2.42	
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	594	2.10	
タムロン協力会社持株会	473	1.67	
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント(常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	419	1.48	

注) 1. ソニー株式会社の所有株式数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。
2. 上記の他に、当社が所有している自己株式784千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合2.77%)があります。

株式所有者別分布 (単元未満除く)



株主メモ	
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年12月31日
	期末配当 毎年12月31日
	中間配当 毎年6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) ※取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ http://www.tamron.co.jp

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
●未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

- 主な掲載コンテンツ
- 企業情報
 - 製品情報
 - お問い合わせ
 - CSRへの取り組み
 - 採用情報
 - IR情報

タムロン・フォトサイト
写真の様々な楽しみをご紹介します。ぜひご覧ください。



タムロン・プロニカクラブはこちら

株主の皆様へ
インターネットでアンケート!!

株主の皆様の声をお聞かせください

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7740

いいかぶ 検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶ と4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信
kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL : 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)
MAIL : info@e-kabunushi.com

※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

タムロン トップページ

投資家の皆様へ
財務情報や、IR関連ニュースはこちらをご覧ください。

CSRへの取り組み
社会・環境への取り組みについて詳しくはこちらをご覧ください。



株主の皆様もぜひご応募ください

第8回 タムロン マクロレンズ フォトコンテスト 作品募集

募集期間：2011年3月1日(火)～10月31日(月)

※データ応募：23時59分まで／プリント応募：消印有効

第7回 2010年度 タムロン マクロレンズ フォトコンテスト グランプリ受賞作品



●詳しくは当社ホームページ上にも掲載しています。

TAMRON MACRO LENS
PHOTO CONTEST

コンテスト概要

ネイチャーの部

植物や虫、小動物などの

ネイチャー写真を対象

ノンジャンルの部

人物・アクセサリ・料理など、

ネイチャー写真に限らず広く募集

応募規定：マクロレンズで撮影された写真であればメーカー名、旧モデルを問わず応募可能。

テーマは自由。(どちらかの部門にご応募ください。)

応募形態：データ応募 画像データはJPGのみ、作品あたりのデータ容量は2MB～10MB

プリント応募 キャビネサイズ(2L)～四ツ切りワイドプリントまで(デジタルホームプリント可)

主催・お問い合わせ：株式会社タムロン マーケティング・コミュニケーション室

マクロレンズ フォトコンテスト事務局

電話 03-3251-3860 FAX 03-3251-3863

「マクロレンズのタムロン」が主催するマクロレンズ限定のフォトコンテストです。

作品募集中ですので、多くの方々のご応募をお待ちしております。

詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.tamron.co.jp>

第3回タムロン鉄道風景コンテスト大賞作品

「私の好きな鉄道風景ベストショット」



大賞受賞作品(一般の部：さいたま市長賞)

竹尾 康男 様「明けの列車」



大賞受賞作品(小・中・高校生部の部：さいたま商工会議所会頭賞)

清水 駿介 様「こんにちは、車掌さん。」

株式会社タムロン

〒337-8556

埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

TEL 048-684-9111(代)

FAX 048-683-8289

<http://www.tamron.co.jp>

■IR情報関連に関するお問い合わせ
経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00～午後5:20)

FAX 048-683-8282

e-mail : kabushiki@tamron.co.jp

